

湘南学園だより

No.95

発行
湘南学園だより部
編集

期待

湘南学園理事長 園田 貞美



まだまだ寒い日は続いておりませんが、卒業式、入学式の行事の予定が入り、春はもうすぐそこに来ております。学園も受験が終わり新しいスタートの為の準備に入っており、また、新たに学園に通うことになる子供たちも期待に膨らんでいることと思います。誰でも新しい環境に慣れるまでは不安です。学園としては、子供たちが一日も早く学園になれ不安を早く取り除けるよう心がける事が最大の歓迎となるでしょう。

法人は、学園の中で子供たちが生き生きできる環境はどのようなものなのか考え、提供し続ける責任があります。その為にはPTAを含め学園関係者の協力が必要です。

現在、理事会は寄付行為（法人運営の基本ルール）の改定の真ん中です。創立以来の改革と考え理事が一丸となって取り組んでおります。今後の社会情勢の変化に対応でき、また学園の保護者と教職員による共同運営の基本方針は変えずに、透明性の高い運営を目指すことは学園の存続には欠かせません。これらの事を可能な限り推し進めていく考えは揺るぎないことです。法人に対して皆様からの多くの御期待の中、運営することができ感謝しています。

子供たちや教職員の情熱が湧き出てくるような学園はどのようなものなのか、常に考えていかなければなりません。これから目指す学園像の姿に対して多くの方と共

有する目標を創りあげることが最大の課題であり、この目標を形にしていかなければならないと感じています。理事会においても長期展望の作成となかなか思いうようには進みませんが、今、追い風にある学園には一刻も早くかたちにすることが必要です。

学園の体制は一般の組織にある中核となるものがありません。当初、私はこれが学園においての弱点に感じましたが、今は少し違った見方をしています。確かにオーナーがいけない事は新たな事を進めようと思えますと決定に時間がかかるように思います。しかし、誰もが納得するものを実行しようと考えば決定にはそれほど時間はかかりません。複雑なバランス感覚も必要なく皆様の協力があれば山は動きます。学園に於いては皆様一人一人が核になっているのです。

私たちは日々多くのことに期待します。それは大きいものも小さいものもありますが、夢を育み挑戦する気持ちをはるかに立たせてくれます。年齢を重ねるごとに相手に期待するより、相手から期待されることに気づくことが多くなり

ます。もちろん、社会的に重要な立場に成ればなるほど期待される事が重責に感じることもあります。しかし、それ以上に期待にこたえることの大切さと喜びを経験し、それに応えようと思ふ気持ちが強くなります。このような情熱は人間社会にとって大変貴重なことと思います。

人からの期待に応えることならばしさを多くの方が気づき、応えようと思つたとき、一人一人の生き生きとした輝きを感じられ、まわりの人々に活力を与えます。その活気がまたまわりの雰囲気をも明るくし大きな変化をもたらすように感じます。

期待されて激励を受け、時には批判にさらされます。注意を受けるうちはまだ希望があると考えています。いろいろ考え、計画してまとめることは重要ですが、最後はどのように行動したかが問われます。そして、どのように考え行動したかという過程が最も大切だと思えます。期待される喜びを感じ信念を持って行動を起こせることを子供たちに伝えていけるよう心がけていきたいと思っております。

『もうすぐ一年生』

三学期、年長組では卒業に向けて『思い出帳』作りに取り組んでいきます。一人ひとりの子ども達に幼稚園生活の中で印象に残ったことを尋ねてみると・・・

幼稚園でね、初めてお友達になったのは、ちゃんなの。最初はねお友達少ししかいなかったけど、今はみくんがお友達だよ！

朝、スクールバスに乗って行く時、幼稚園に着くのがとっても楽しかった！着いたらすぐに外で遊ぶんだってわくわくするの！

お泊り会の時、みんなで露天風呂に入ったのが気持ち良くて楽しかった！

縄跳びとかあやとり、すみれさん（年中）の時には出来なかったのにさくらさん（年長）で挑戦したら出来るようになったんだよ。僕ってすごいなって思った！

など、小さな胸の中にきゅっと詰まった思い出を一生懸命に話していました。その言葉や自信あふれる表情は、初めての集団生活の中で友達と一緒にいった様々な経験を通して、子ども達が大きく成長したことを改めて感じさせるものでした。

今井 里恵

また『大きくなったらなりたいたい』の絵を描く場面では、「僕はホームランいっぱい打つ野球の選手になりたいんだ」「私はね、甘くて美味しくてすぐに売り切れちゃうケーキ屋さんのお姉さんになりたいの」「僕はおもちゃ屋さんになるよ。そうしたら先生と幼稚園のみくんで買いに来てね」など、周りの友達との話に花を咲かせながら、目をキラキラさせて取り組む姿が印象的でした。

三月十六日には第七十三回幼稚園卒業式が行われます。卒業の日が徐々に近づき、あと、日しかみんなに会えないからいっぱい遊んでおこう！小学生になっても先生に会いにトトロの門に行くからねなど子ども達なりに初めての卒業や友達との別れを受けとめているようです。

今年度は八十三名の卒業生のうち六十三名が学園小学校に、そして、十八名が公立小学校、二名が他私学の小学校に巣立っていきます。幼稚園生活で培った力を土台に、新しい環境の中、小さなつぼみたちがそれぞれの花を開かせることを願っています。

卒業生の動向

一貫教育の湘南学園ですから、卒業生の大半が湘南学園中学校に進学します。これは、当たり前と思っていましたが、そうではない私立小学校も結構あって、上級学校があっても大半がそこへ進学しない学校もあるということですよ。ですから、あらためて「卒業生の大半が同系列の上級学校に進学する」ということは、お伝えする必要があります。今年度は八四名が、前年中に推薦を受け湘南学園中学校に進学することを決めております。

さて、その他の小学生の動向ですが、大きく二つの方向があります。一つは、湘南学園中学校とは特色の違う学校を選んで、受験を経て進学する者。もう一つは、公立中学校に進学する者です。

前者の、他私学・国立受験者ですが、大学付属の一貫校、超進学校、男子校、女子校とバラエティに富むいずれも難関校から入学許可を頂いたようですよ。

小学校として、独自の受験指導はしておりませんので、個人で海外に出て荒波にもまれて、結果を出したということ、その努力には並々ならぬものがあったと察することができます。

木村 陽一郎

東京・神奈川の受験日は二月に入ってからですが、それより早い地域の中学校を受験して力試しをする傾向が近年高まっており、「できるだけ毎日学校に来ます。」と言っていた子どもも、計画を変更せざるを得ないような前哨戦の厳しさもあつたようですよ。

小学校からの調査書が必要としない中学校も増えております。ですから、担任がクラスの子がどの学校を受験しているかつかむことができないうのが現状です。もちろん、前述の通り、特別な指導をするわけではないので、受験日が近くなつたら、その学校の地域を思い浮かべて健闘を祈るしかできることはないのです。

公立中学校に進学する者も、運動など自分の好きなことに打ち込みたい、県立の名門校を目指したい等、それぞれの目的にしたがって地元公立中学校を選んだようですよ。

四月に門をくぐる学校が第一志望の学校であることなながあつてしゃべっていたようですが、まさにその通りだと思えます。小学校で学んだことを活かして、胸を張って中学校生活をスタートしてくれることを期待しています。

新アリーナからの旅立ち

高等学校では今春百五十五名の卒業生を送り出します。

学園小学校が三クラス制になった最初の学年ということもあり、彼らのうち七十五名は内部小学校からの進学者ですし、さらにその中の三十七名は幼稚園から十四年間で在籍してきた諸君です。この学園で過ごした時間の長さは人それぞれであり、その間にはさまざまな出会いや別れもあったことでしょうが、そんな月日を彼らは彼らなりに一生懸命に過ごし、外見的にはもちろん内面的にも大きく成長してきたのです。

その陰には保護者の皆様の熱い期待や温かな思いやり、そして時には厳しい叱咤激励があったことは言うまでもありません。私としてもこの六年間そんな保護者の皆様の思いをひしひしと感じながらここまで何とかやってこられたというのが率直なところです。これまで何かが心配をおかけするようなこともございまして、その都度我々の話に真剣に耳を傾けて下さり、適切なご意見を賜りましたこと、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、そんな彼らも現在は大学入試の真っ最中です。少子化に伴い受験人口が減少する一方、国公立大志望者にはセン

高校三年担当 伊藤 眞哉

ター試験で七科目以上が要求されたり、私大も早慶上智といった最難関校ではむしろこれまで以上に競争が激化している感のある入試ですが、そんな中でも現高三生諸君はよく健闘しています。各自の希望の進路を実現するために最後まで頑張り抜いて欲しいと思います。

もっとも大学は入試を突破すればそれで終わりというものではありません。大切なのは入学後に何をどう学ぶかということ。中高の特別教育活動でも重視してきたことですが、「自ら学び考える力」が本当の意味で問われるのが大学です。どうかこれからも幅広い視野と柔軟な発想を大切にしながら、実り多き学生生活を送ってくださるよう願っています。

この湘南学園も、彼らの在学中に大きく様変わりしました。新しい校舎の新しいアリーナから初めて巣立っていくのが彼らです。旅立つ者ここに残って送り出す者の違いはありますが、ともにこれから新たな世界を築き上げようとする点では同じです。いつかまた再会する時に、お互いに「いい感じで頑張っているね」と言い合えるよう、これからもお互いにそれぞれの場を振り絞っていきたいですね。

進路指導室の開室について

中高等学校進路指導主任 服部 基樹

中高では、学校改革の一貫として今年度より進路指導体制を一新しました。初年度である今年一年間は、大学・産業等の情報、県内・全国の進路指導の状況などを収集し、この学園に相応しい進路指導の在り方を探ってきました。これらの検討を基に、中学・高校六ヶ年の学習・進路指導カリキュラムの作成を開始しています。

その中から、校内での大学入試説明会、進路指導室の新設、については今年度から準備を進めてきました。説明会は六、九月に実施し、進路指導室については開室準備が整い、この一月より生徒の利用を開始しました。以下に、進路指導室の概要についてご説明いたします。

一、設置の目的

進学・進路関係の資料・データ、書籍などを一カ所に集約し、生徒・教員が自由に利用できる環境を整える。高校三年生はもちろん、下級生にも進路や受験情報に触れる機会をつくり、早い時期から目標を設定し、学習・進学に対する意識を高めていくことが出来るようにする。進路指導は、第一には各クラス担任



・各学年の先生方が行うが、進路指導室でも資料やデータを基に質問・相談にのる体制をとる。

二、指導室内の資料・設備

各大学の入学案内・入試要項
主要大学入試問題(冊子・実物)
主要大学のシラバス(講義要項)
入試問題集・参考書(赤本・青本、旺文社、予備校発行など)
予備校資料・模試資料・模試過去問題
進路・キャリア教育関係書籍
インターネット検索用PC
DVD・ビデオ視聴用テレビ
ポスター掲示・新聞記事の切り抜き
掲示
三、開室曜日・時間帯
月)金・昼休み
月)土(木除く)放課後
開室以来連日、高校生を中心に多くの生徒達がこの部屋を訪れ、資料を閲覧したり、PCで大学のHPを検索したりと積極的です。資料・設備のリクエストも出されるなど、自分の進路に対する関心の高さがわかります。この指導室の活用によって学校全体の進学に対する意識が高まり、一人でも多くの生徒が進路の夢・希望を実現していくことができるように支援していきたいです。

四月になるといろいろな情報・資料が集まってきます。中学生も高校生もいち早く新しい情報に触れることができるよう、気軽にこの部屋を覗いて欲しいと思います。



今年度の中学入試 結果について

中高総務主任 山田 明彦

二〇〇五年中学入試は、今年度も二月初めの三日間で連続四回の設定で行いました。新校舎完成を受けて横浜会場受験は取りやめて、従来の即日発表を基本に運営しましたが、応募者総数は「1652」と空前の多数に達し、全体を通じた実質競争率は実に四倍を上回る難関となりました。昨年度三倍を超えて反動を覚悟した中での一層の難化でした。

高校募集を中止して中高一貫体制に踏み切ったからの推移は別表をご覧ください。ここ二、三年間の増加はめざましく、湘南学園中高に対する期待と関心が急速に広がっている事がわかります。

この背景には昨年度と同様、まず新校舎の魅力があります。新制服への評価も重要で、特に女子受験生の急増には相当な寄与があったと推定されます。この中でオープンキャンパスや学校入試説明会への参加者数が増加し、12月説明会には540世帯以上、約1100名ものご参加を頂きました。アリーナなど諸施設の充実、語り合いスペース、採光の良さなど好印象であり、その中で授業の公開も定着し、厳しい実状も一部ありましたが、「授業は落ち着いた雰囲気、生徒達も和やかな感じ」といった肯定的な学校評価が概して優勢になったようです。

入学時校納金は七日まで全額延納が可能でしたが、最終的な手続き率は予想を越える高さで、その後の辞退もごく少なく、十二日の新入生招集日に至りました。

最終試験のC日程あたりは、例年欠席者が半分以上になるのですが、前回から受験率が大幅に高まりました。A日程午後を除いては、当日の成績上位者も軒並み手続きされる傾向が顕著で、本校を総合的に選んで下さる層の広がりには驚きました。

一方で連続四回試験を全部受験されても結局届かなかった皆さんは、全体で70名近くと昨年度の二倍以上にもなりました。ごく限定の範囲で一定の優遇措置も導入したのですが、ボーダーラインの上昇と競争率の激化の中で、本来充分に合格可能な方々がなかなか合格できなかったのです。「どうしても湘南学園へ入学したい」と第一志望で長い準備を重ねられ、説明会等にも何度も足を運んで全試験を受験されながら、願いを果たせなかつた受験生と保護者のお気持ちを考えて、断腸の思いがつのります。

午後入試も含む現在の中学入試全体日程については、募集力の高まりと受け入れ人数枠の限界を踏まえて大幅に見直し再編する必要があります。学園は急に難しくなり勧めにくくなったとの塾関係者等からの率直なお声にも接しています。今後の募集活動が、厳しい反動や警戒感に直面することは必ずです。応募数の減少を恐れず適切な入試設定を早めに確定して努力を重ねていきたいと考えています。

本校のどこが評価され、期待されて

いるのかは、もっと総合的に深めて分析すべき事柄でしょう。

昨年春の大学合格実績の躍進はとても重要な要素でした。特に上位の私立大学や理系方面での躍進が顕著で、実績への注目や安心が広がったはずですが、

また学習指導委員会の発足、校内大学説明会や高大連携の模索も注目されましたし、海外語学研修の開始、朝補習や校時帯等に着目する御家庭もあつたことでしょう。本校独自の総合学習にあたる特別教育活動に深い関心や期待を寄せられるご家庭も少なくありません。強引に言ってみれば、環境はいいし学習指導も熱心、進学実績もまずまずで、日本や世界の将来も見せている。学校行事や部活もそれなりにさかんだし、面倒見が良さそうだから、六年間我が子を託せそうだ」といった総合的な評価を頂いたのだろうかと考えられます。

受験の壁を突破して入学する諸君が142名、学園小学校からお迎えする内進生は昨年度と同じく84名であり、新中一の合計は226名となりました。

校舎や制服は年を追うことに吸引力を弱めていくことは自明であり、これから数年間の中で学園の教育内容の充実と進学実績の安定向上を図ることは至上命題になっていきます。

年間行事やクラス体制、カリキュラムの再編、総合学習の充実、教員の研修強化など重要な議題に直面する現状です。在校される皆様方の切実な希望や期待に応えられる、より良い学校にしていく責務があることを念頭に進んでいきたいと思ひます。

(1) 来年度中学1年生の総数

	男子	女子	合計
内部進学生	40	44	84
外部入学生	74	68	142
来年度中1	114	112	226

(2) 今年度中学入試・各日程の結果集計

	出願	受験	合格	実入学
2月1日A日程午前	255	238	69	36
2月1日A日程午後	500	427	114	22
2月2日B日程	319	262	70	52
2月3日C日程	578	382	59	32
合計	1652	1309	312	142

欠席者の中には、本校に複数回出願され、合格以後の試験については自動的に欠席となる受験生も多数におよびます。

(3) 中学入試 応募者数・受験者数の推移

	応募者数	受験者数
1997年	1048	797
1998年	1171	877
1999年	783	560
2000年	586	410
2001年	675	410
2002年	667	440
2003年	816	514
2004年	1320	1018
2005年	1652	1309

「合唱コン通信」

M3E担任 北條 暁



本番が終り席に着いた女子生徒たちが、ひとり、またひとりと次々に泣き始めた。「失敗した。」「優勝できない。」「という理由であった。僕が合唱を聞いた限りでは、もしかしたら・・・」という印象であったが、興奮しているそのときの彼女たちには何の慰めにもならないと思い、放っておいた。

中学最後の合唱コンクールということもあってか、合唱実行委員、クラス合唱委員は後期の各種委員決めのなかでもすんなり決まった。

しかし、十一月下旬の研修旅行の最中に、バスの中で合唱曲の選曲をするクラスがある一方で、我がクラスはどこ吹く風。研修旅行をとことん満喫していた。

そして、研修旅行から帰ってきた後も、いっこうに選曲は行われない。締切間近になってにわかに焦り始めた合唱委員のふたりが自発的に「合唱コン通信」を発行した。候補曲についての詳しい説明が書かれており、選曲で八割方勝負がついちゃうと言われまし

た。みんな、バッチリ選曲して、最優秀賞を勝ち取るうっ！」という意気込み・熱意が感じられるものだった。クラスの生徒たちはこの通信を見て選曲に臨んだ。

その後もパート名簿やパート練習用のテープ録音のお知らせ、年末年始の練習日程など次々と、「合唱コン通信」が発行された。

しかし、すぐにクラス全体が目標に向かって突き進んだわけではなかった。これがクラスで行う合唱の難しいところである。なかなか男子の一部がまとまらない、言うことを聞いてくれない、練習に出てくれないなど、頭を悩ませるところは山のようにあったが、通信での訴えが徐々に浸透してゆき、女子を中心に協力的な男子が核となつて、練習最終日は三二名全員が六時の完全下校の時間まで練習に臨むことができた。

充分に生徒たちは頑張った。だからこそ歌い終わった後に涙がこぼれたのだろう。結果として、この涙は最優秀賞につながったのだ。

おめでとう。

合唱コンクールを終えて

高二A担任 野々内 治男



高二Aは、結果的には昨年度に引き続いで連覇ということになりましたが、そこに至るまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。

まず曲決めで大いに悩まされました。昨年度も同様でしたが、A組は男女比が大変アンバランスなクラスです。従って、通常の男声二部、女声二部の合唱をそのままの形で歌うわけにはいきません。編曲することも考えましたが、最終的には男声一部、女声二部の曲にすることにしました。果たして、三部の曲で優勝できるのか？という思いはありましたが、生徒たちは優勝する気満々です。あとはどこまで仕上げる事ができるのかという一点に、勝負はかかっているように思われました（実際は、かなり難しい曲でした）。

練習ではいつもの私の流儀で、強制的に放課後残すという事は極力避け、あくまで生徒たちの自主性に任せました。自主性と言えは格好は良いですが、実体は「放置」です。私がやったことと言えば、機材の貸し出しのみでした。教室にもほとんど顔を出しません。そのような困難な状況の中、クラスの実行委員を中心として、生徒たちはよくやっていたと思います。全員揃うということも少なかったのですが、都合のつく日を各自が選んで、練習に取り組んでいました。

コンクール直前まで時折不安定になる（音程がスれるなど）箇所があ

り、危惧しましたが、当日は大きなミスもなく歌い切ることができました。他の高二の各クラスとも、とても出来がよく、非常に際どい争いになると思われましたが、運良く優勝することができました。

今回を含め、これまで何度か優秀クラスの担任として生徒たちを見てきました。そこで感じることは、フォロアップの重要性です。合唱は強いリーダーシップをとる生徒がいるだけではうまくいかないものです。そのリーダーをいかにその他の生徒が盛り立てていくか、ここにポイントがあるように思います。



防災体制と地域協力

昨年、国内では中越地震が起こり大きな被害が受けました。また、年末のスマトラ沖大地震による津波では多くの国でたくさんの方が被害にあいました。このようなことがありましたので、学校として地震対策・防災教育をする必要があると思いましたが、いつ起こるともしれない地震に対して、学校のように多くの青少年が集まる機関・施設では万全な対策をたてる必要があることを、今回の大惨事を目の当たりにして、あらためて認識した次第です。

防災講演会を実施

これまで、小学校では学期ごとに避難訓練や集団下校を実施しており、幼稚園でも毎年防災訓練を実施しています。一方、中学・高等学校では新校舎の建設工事が続いたため、この数年間避難訓練を行っていませんでした。早急に対策をたて、避難訓練を実施する必要があります。中学生や高校生にはなかなか訓練の必要性が理解できず積極的な参加がみられません。関心がもちやすい時期を選び、避難訓練や防災教育を実施することが必要であると考えました。そこで、一月三十一日に防災意識を高めるための講演会を実施

中高校長 近藤 正隆

しました。藤沢市在住で、地震研究・防災対策のスペシャリストである国立極地研究所名誉教授の神沼克伊氏をお招きして、地震のメカニズムや地震が起こる可能性、また地震が起きたときの対策について、お話を聞きました。特に、東海沖地震が起きたときには津波が起こるのか、津波が起きたときに湘南海岸にはどの程度の津波が押し寄せる可能性があるのか、そのときの避難方法など具体的なお話でした。最後に、地震が起きたときに中学生・高校生の皆さんにお願いしたいことがあるとして、この地域には高齢者が多いので、家を一軒一軒訪問し、体が動けなく



講演されている神沼先生

なっている人がいないかを確認する活動の戦力になってほしいとの期待で、一時間あまりの講演をしめ括りました。大きな地震が発生した後だけに、生徒諸君の中にはとても興味深く聞けた人もいたのではないかと思います。

自治会との協力体制

さて、今回の講演会が実現できたのは湘南学園の卒業生である佐藤允氏のご尽力によるものです。佐藤氏は神沼先生とは湘南高校で同窓であつた縁から紹介していただきました。また、この講演会には、近隣自治会である、「ニコニコ自治会」会長の石黒氏があり、同氏も湘南学園中学校出身で、佐藤氏とは同窓です。

このように、学園周辺には学園関係者が多く、この方々の中には、湘南学園を盛り立てていきたいとの考えがあります。ところが、中高の新校舎建築のときには、このような方々のお力を借りることができませんでした。逆に湘南学園に対する反感だけが目立ちました。もっと湘南学園を理解していただくことが、湘南学園に通う園児・児童・生徒にとつて必要なことです。そのためには、近隣の方々に湘南学園を理解していただけるような対応を学校がしなければならぬのではと考えています。具体的には学校にある施設をもっと開放して近隣の方々に来ることのできる機会をあたえるようにすることです。

防災倉庫の設置

今年に入り中高駐輪所の脇に藤沢市の防災倉庫が設置されました。これは藤沢市からの要請によるもので、湘南学園は地域の緊急時における一次避難場所に指定されていて、必要物資を蓄える倉庫がなくてはなりません。藤沢市からは以前より倉庫設置の要請を受けていましたが、新校舎が建築中であつたことから延期してしまいました。これに先駆けて本学園が所属する自治会、五友会からも自治会用防災倉庫を湘南学園内に設置させてほしいとの要請があり、昨年十二月に設置されています。この倉庫はテクノエリア奥のコンクリート上にあります。

湘南学園では、これまであまり学外からの要請に協力してきませんでした。もっと地域の方々との協力関係をとり、湘南学園がこの地域の方々にとつて必要な存在になるには学園が地域の方々の要請を受け入れることが必要です。五友会からは湘南学園のことをできるだけ理解し、協力したいと考えていること、学園の施設をもっと利用させて欲しいとお話がありました。

二月二十日に防災訓練を

このようことを受けて、五友会からは防災訓練を湘南学園のグラウンドで行いたいとの打診がありました。



防災訓練をする五友会

ので、クラブ活動がないテスト前やテスト中ならば可能であると伝えたとところ、二月二十日に五友会主催による防災訓練を行うことになりました。当日は三〇〇名を超える方々が参加し、午前十時より藤沢市防災課の協力により行われました。起震車体験、簡易トイレ作り、消火器練習、アリーナ見学、防災倉庫確認が班に分かれて行われ、大変なまでに良かったです。

このように湘南学園が近隣の自治会と協力するようになったのは、2年前にPTA懇親会で学園周辺の地域清掃を行うにあたり、近隣自治会へあいさつまわりをしたことがきっかけです。すると、五友会の水品会長をはじめとする役員の方々から、当時PTA会長をしていた田辺さんを紹介して、学園を訪問してきました。

そこで、五友会と湘南学園との協力関係について話し合い、湘南学園としてもできるだけ五友会の活動に協力したい旨の表明をし、五友会からは防災倉庫設置や自治会会合での使用したいとの要望が出されました。

安全面からも地域との連携

これまで、ほとんど近隣自治会と協力について話し合ってきた中で、たぶん、近隣からは学園が門戸を閉ざしていると思われるというふうです。このような状態を解消することを目指して、様々な形で湘南学園から近隣の方々にアプローチしていかねばならないと考えています。確かに、湘南学園は創立以来、ずっとこの藤沢鶴沼松ヶ岡から離れることなく存在し続けてきました。しかし、どれだけ地域の方々に必要な存在として理解されてきたのかを測ることは出来ません。中には、子どもたちが沢山いてうるさいと感じたり、通勤にとって迷惑な存在と思ったりしている方も多いのではないかと思います。一方で、協力してやるという方もいると思います。まずは、学園が地域のために尽くすという姿勢が必要です。

それがあれば地域の方々から協力が得られ、園児・児童・生徒の安全で、教育するのにふさわしい環境を得ることができると考えています。

サブバッグの導入及びクラブ用バッグについて

中高生活指導主任 清水 一伸

今年度の入学生より新しい制服を導入し、間もなく一年が過ぎようとしています。新しい校舎に合っていて、生徒諸君の雰囲気も変わったように思えます。

制服が新しくなったことや生徒達の生活状況から、サブバッグを導入することに致しました。また、クラブ活動時を考慮し、クラブ用のバッグで通学することについても認めることに致しました。

今年度まで通学時のカバンは所定のスポーツバッグだけでした。このスポーツバッグは、43cm x 30cm x 17cmという大きさのもので、学校行事や試験中などは、大きすぎてしまうという声がありました。また、クラブ活動日や対外試合では、用具を入れるには小さすぎるという声もありました。

そこで、所定のスポーツバッグの他にやや小さめなサブバッグを導入することに致しました。三社にサンプルバッグを三点ずつ作成してもらいました。このサンプル品で生徒投票を昨年の十二月に行い、その結果から導入するバッグを決定致しました。決定したバッグは湘南をイメージした爽やかなグレーと紺の配色で作られています。八一五名が投票し二二〇名が選んだものです。サブバッグは希望制で、既に注文を二月に取り、四月にはお渡しできるように進めています。



新しく採用したサブバッグ

使うバッグで通学する際には、「クラブバッグ通学届」をクラブ顧問と担任を通じて生活指導委員会に申請する方法に致しました。今まで曖昧にしていたクラブバッグ通学を届け出制という方法に改めさせていただきました。さらに、クラブの部員でバッグを揃える際にも同様に申請する方法を取らせてもらうことに致しました。クラブバッグ通学については、来年度から生徒手帳に記載する「クラブバッグ通学規定」を参照していただければと思います。

ご家庭におかれましては、学校での指導方針をご理解いただき、生徒の身なりや所持品等につきまして、今後ともご留意いただければ幸いです。

評議員会報告

理事 加藤 正文

一月二十二日(土)午後三時半より評議員会が開催されました。議題は、寄附行為改訂についての諮問、2、中学校舎建設についての報告の二点でした。まず冒頭に園田理事長より議題も含めて全体的な話がありました。1、については私立学校法の改正と県からの指導に基づいて今回の改訂が行われた、2、については昨年の十二月に建設費用の最終的な支払いが終了したのを受けてまとめの報告をしたいということでした。その他の事項として次の四点の報告がありました。昨年の十二月に監査法人から問題指摘があり現在調査中であること、財務状況に関連して今後校納金の検討も必要であること、今後の小学校舎建設に関連して隣接地の購入を検討していること、中学校入試の応募状況が良好であること。

続いて議題の1、について担当の田辺理事より説明がなされました。昨年五月の私学法改正を受け理事会でも見直しを開始し、何度かの委員会、討論会、理事会を経て一月十五日に最終案が決定したという報告の後、改訂内容の説明がありました。その主なポイントは次の通りです。理事選任に関して、各学校長から選任されたもの一人以上の項目を追加した、監事の他職との兼任を禁止した、法人の代表権を理事長一人へと変更した、常任理事会を明確化した、自動的に評議員になるものに各学校長、事務長を追加した、保護者も教職員もすべて二年任期の

互選による評議員とし、人数も保護者二十八人教職員一〇人と変更した、互選方法等については今後検討し寄附行為に細則として載せる。説明を受けて質疑に移りました。出された意見、質問の主なものは次のような項目のものです。教育理念、理事の選任での校長枠、常任理事会の構成メンバー、常任理事会の所管事項の内容、理事会、評議員会における保護者と教職員の数のバランス、教職員評議員の互選方法。これに対し理事会から応答があり、意見は持ち帰らせていただくとの話がありました。

次に議題の2、について担当の中川副理事長より「中高建設総括資料」に基づき報告がなされました。要旨は、当初契約額は約二六億だがこれは本体工事であり、それに追加及び別途工事代、機器備品代等を加えて約三一億二千四百万が支払い額であり、用意されていた建設費用約三〇億に対して約一億二千四百万の超過となった。ただ大成建設近隣対策費二千万と大林組に支払った業務申請料八千万の計一億については、顧問弁護士から元学園関係者に予告通知を出しているため今後の展開を待つ必要があるというものでした。この件に関しては特に意見はありませんでした。

また、冒頭の理事長のその他四点の報告に関しても意見、質問はなく、午後五時五十分評議員会は終了しました。

制作展

南田 美加

今年度も、子どもたちが図工、家庭科クラブ、総合の時間で作った力作を二月十八(金)、十九(土)の二日にわたって展示し、全校で鑑賞、一般にも公開しました。

絵画造形室は、一年生の「シーサー」、三年生のスチレン版画「海の生き物」と、板や枝・流木を利用して作った「木の生き物」、四年生の木の箱や絵画・版画作品、五年生の紙粘土「私の気持ち」、六年生のカラフルな「砂絵」でいっぱい。二年生の張り子「海の生き物」は、図工クラブの「イルカ」と共演し、子どもたちにも人気でした。

西校舎には、六年生の焼き物「ランプシェイド」全てに灯りがともされ、二年生のスチレン版画がユニークな形と色で周囲の壁を飾る暖かな雰囲気の中、「修学旅行記」を手にとって読む人の姿も多く見られました。吹き抜けの大きな壁面には、一年生の踊るエイサーの切り絵、一階には一年生の水彩画「お話の絵」が並びます。

東校舎各階廊下には、五年生が一学期かけて描いた「学園の風景」を展示。



三階の会合室には、五年生の巾着、六年生の「布で作る贈り物」と家庭科作品が並び、その奥には人気の漫画クラブの作品集や手芸クラブの作品、理科クラブ研究発表が展示されました。

子どもたちは、クラスごとに一時間ずつ鑑賞を行い、感じたことを感想カードに記入していきました。

こんなにいいシーサーができるとおもわなかった。早くいえにもつてかえりたいな。(一年)

六年生のすな絵の色づかいがきれいでした。六年生になったらやってみたいな。(二年)